令和3年度 FD 実施計画書・報告書

令和4年3月現在

I 学部学科・研究科名

栄養科学部 フード・マネジメント学科

II-1 実施計画①【概要】

II-2 実施報告①【概要】（年度末記入）

取組N°	A FDセンター重点項目	FD2021 取組項目	A FDセンター重点項目 達成内容
1	DP 達成度評価の現状と課題抽出・計画策定 ・DP ルーブリックの策定に向けた問題検討、目標・計画設定 ・DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討	1-1-(1)	DP達成度評価の検討の素材とするため、DPルーブリックのたたき台が提示され、評価項目である細項目を7つに集約することが合意された。なおDP達成度評価に関する現状把握と今後の課題については、3月に予定した学科FD研修会を開催できなかったため、次年度に議論することされた。
2	授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ・各学科におけるルーブリック導入率 （授業ルーブリック・課題ルーブリック）の向上 ・ルーブリック共通フォーマット導入の検討	1-2-(1)	FD2021におけるルーブリックに関する事項と3カ年計画における行程表と数値目標を改めて共有し、ルーブリック導入率向上に向けた課題と支援策を議論した。ルーブリックのフォーマットについては、学科独自の共通フォーマット導入の必要性は乏しく、大学の共通フォーマットに基づき作成していくこととされた。
3	Society 5.0の到来に備えたDP/CPの見直し ・数理・データサイエンス・AIに関連する科目等の設置検討	1-1-(4)	新カリキュラムにおける新規科目「経済・経営数学」の目的と教育内容について情報共有され、当学科の教育目標に照らして、食産業等における応用についてはこの科目で対応するが、データサイエンス・AIそのものに関する教育は大学合同の教養科目として充実すべきことが指摘された。また現状のカリキュラムにおける「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」や新規科目「マーケティングリサーチ」等の数理関連の選択科目について、まずこれら科目を非常勤講師ではなく専任教員による必修化も検討すべきとの意見があった。
4	「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定 ・FDセンターから提供された成績評価ガイドライン(仮)(暫定案)をもとに研修会実施・意見共有	1-2-(2)	FDセンターから提示された成績評価ガイドライン(案)及び現状の学科別成績評価分布状況等のデータを情報共有した上で、成績評価はルーブリック導入の趣旨に即して絶対評価をベースとすべきであるが、科目・教員間の著しい分布のばらつき等があれば是正するためにIRデータに基づき改善策を検討していくこととされた。
5	各学科・研究科内FD研修会と情報共有の場の推進	1-2-(3)	従前は学科会議の一部としてFD活動を推進してきたが、今年度より意見交換の活性化に向けて、学科会議とは別に学科FD研修会(対面会議)を開催していくこととした。ただし、緊急事態宣言・まん延防止措置等の影響により対面会議開催が制限されたことに伴い、予定通りの開催に支障をきたした。
取組N°	B その他取り組み項目		B その他取り組み項目 達成内容
6	教学マネジメント指針の推進 ・学部合同FD研修会を開催し、教学マネジメント指針の理解を深め、FD2021推進の機運を高める。		学部合同FD研修会を開催し、FD2021の実現に向けて、教学マネジメント指針のポイントを理解し、ディプロマ・ポリシーに定めた学修目標を達成するための教学改善のPDCAサイクル確立、適切な学修成果の可視化と情報公表に近づくための基礎知識を修得する機会となった。

Ⅲ-1 実施計画②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】

Ⅲ-2 実施報告②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】 (年度末記入)

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
6	7月	<p>教学マネジメント指針(学部合同 FD 研修会)</p> <p>・FD2021 の実現に向けて、教学マネジメント指針のポイントを理解し、ディプロマ・ポリシーに定めた学修目標を達成するための教学改善の PDCA サイクル確立、適切な学修成果の可視化と情報公表に近づくための基礎知識を修得する。栄養科学科とフード・マネジメント学科の合同開催。<大久保教授、株田教授></p>	9月30日	<p>・DP に定めた学修目標を達成し、「しっかり学び、元気に活躍する学生」を養成するため、教学マネジメント指針の中でも、教学改善に取り組む目的を教員間で共有し、直接評価と間接評価による適切な学修成果の可視化も含めた PDCA サイクル確立が重要であることが説明された。<株田教授></p> <p>・FD の基本的理解のために、①FD の定義、②FD の変遷、③海外の FD、④日本の大学の FD における現状、⑤本学の FD の特徴について解説がなされた。次いで、今後の持続的・効果的な FD 実現のためには、学生のデータを活用できるような仕組みづくりと、IR の活用が必要であることが説明された。<大久保教授></p>
2・5	9月	<p>学科内 FD 研修会と情報共有の場の推進</p> <p>ルーブリックの推進</p> <p>・今年度の FD 教育ワークショップ(※ルーブリックの実質化をテーマとする予定)を踏まえて、ルーブリック導入率(授業ルーブリック・課題ルーブリック)の向上に向けた課題と支援策を検討する。また、ルーブリック共通フォーマットおよび DP ルーブリック導入の必要性に関する情報を共有する。<株田教授></p>	10月7日 11月4日	<p>・FD2021 におけるルーブリックに関する記述を再確認するとともに、FD2021 の3ヵ年計画におけるルーブリック導入率向上に関する行程表と数値目標を達成するための課題等を議論した。<株田教授></p> <p>・主な課題として、学科カリキュラムにおいて非常勤講師の担当科目も多く、これら科目でどのように授業ルーブリックを導入していくか、また専門知識に加えて思考力・表現力等の達成度をいかに評価していくかが挙げられた。</p> <p>・さらに導入率向上のための支援策として、新規作成の参考となるように、教員間で先行事例等の情報を共有することの重要性が指摘され、実行していくこととされた。</p>
4・5	11月	<p>「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定</p> <p>・FD センターから提供された成績評価ガイドライン(仮)(暫定案)をもとに、授業の到達目標の達成度をより適正に評価することを目的とした学科ポリシーの策定検討に向けて、今年度は現状を情報共有し、課題の抽出を行う。<学科全教員></p>	11月4日	<p>・第4回 FD センター会議で提示された「成績評価ガイドライン 2021(案)」、「本学における学科別の成績評価分布状況(2020 年度)」及び「公開されている他大学等の成績評価分布状況」等の参考情報をもとに、現状に関する情報を共有した上で議論した。</p> <p>・一部他大学においては、成績評価分布の目標値を定めて相対評価のウェイトを高めている事例もあるものの、そもそもルーブリック評価自体が絶対評価を基礎とするものであり、成績評価は相対評価ではなくあくまで絶対評価をベースとすべきことが合意された。ただし、科目・教員間での著しい分布のばらつきは好ましくないことから、具体的な IR データに基づき改善策を検討していくこととされた。</p>
3・5	1月	<p>Society 5.0 の到来に備えた DP/CP の見直し</p> <p>・今年度に開始した新カリキュラムにおいて、基礎的な数学に加えて、問題を解決に導くために、どのような数学的な方法を用いたらよいかという観点から数学および数的処理の方法を学ぶ「経済・経営数学」科目を新設したところであるが、さらに数理・データサイエンス・AI に関連する科目等の設置の必要性について検討する。<薬師寺教授></p>	1月13日	<p>・今年度に開始した新カリキュラムにおける新規科目「経済・経営数学」の目的と教育内容について情報共有され、当学科の学生の多くが将来データサイエンスのユーザーとして活躍することとなり、データサイエンス・AI 等の開発に直接携わる機会は少ないことから、食産業への応用については当学科の科目で取り扱うが、データサイエンスそのものについては大学合同の教養科目として充実すべきことが指摘された。<薬師寺教授></p> <p>・なお現状のカリキュラムでも、「情報処理演習 I・II」や新規科目「マーケティングリサーチ」等の数理関連の科目が提供されており、さらに充実の必要があれば、まずこれら科目を非常勤講師ではなく専任教員による必修化も検討すべきとの意見があった。</p>

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
	2月	令和3年度 栄養科学部・食物栄養学科 合同研究大会の開催 ＜学科全教員＞	2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内・学科間で各教員の研究についての情報交換と研究の進展を目的とし、栄養科学部(栄養科学科及びフード・マネジメント学科)・食物栄養学科の3学科合同で研究大会を対面とZoomを用いたハイブリッドで実施した。 ・フード・マネジメント学科からは、プロジェクト研究成果報告2件(「食品の開発から流通にわたる食料の安定供給システムに関する研究」「諸外国の宗教と食のグローバル化に関する調査研究 食文化としてのハラル理解」)、研究報告1件(「グローバル化とフードバリューチェーンの展開」)を報告した。
1・5	3月	DP 達成度評価の現状と課題抽出 ・DP ルーブリックの策定に向けて、DP 達成度評価に関する現状把握と、今後解決すべき課題を抽出する。＜薬師寺教授、株田教授＞	1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・DP達成度評価の検討の素材とするため、DPルーブリックのたたき台を提示し、議論の結果、5つのDP項目に対して、現状では10の細項目が定められているが、これを7の細項目に集約して評価項目とすることが合意された。＜株田教授＞ ・なおDP達成度評価に関する現状把握と今後の課題については、3月に学科FD研修会を開催できなかったため、次年度に議論することされた。